

ますます台湾が好きになった！

本会会員 麻生 剛

台湾に一目ぼれ

そもそも私が台湾を好きになったのは、ひょんなことから台湾に一人旅をしたことがきっかけでした。それまで台湾のことをほとんど知らなかったのですが、台湾に関する本を数冊持ち、台湾行きの飛行機に乗りました。

実は、その本のうちの一冊が、今回のツアーでお会いすることになる蔡焜燦先生の名著『台湾人と日本精神』でした。その内容は非常に感動的で、台湾の方々が本当に日本のことを心から思っ下さっていることを、そのとき初めて知りました。その思いに感化され、台湾に一目ぼれをしました。帰国後もその熱が冷めることはなく、李登

輝先生の本などで勉強する日々が続きました。

そんな私にとって、八月二十二日から二十五日にかけての本会青年部（杉本拓朗部長）による今回のツアーは、まさに渡りに船だったのです。

友愛会・蔡焜燦先生

初日の八月二十二日は台北市内の統一大飯店に集合後、ツアーメンバーの挨拶もそこそこに正装に着替え、友愛会（張文芳代表）の皆さんとの交流会会場に向かいました。友愛会の皆さんは「美しく正しい日本語を台湾に残そう」と活動されている方々です。

お互いの自己紹介を終え、メンバーと友愛会の方、それぞれ一対一で、昔



美しく正しい日本語を台湾に残そうとしている友愛会の皆さんには、日本人としての誇りを思い出させていただいた（陳得欽氏と筆者。8月22日、統一大飯店）

の台湾のお話や日本についてお話しいただきました。そのお話の中で印象深かったのは「当時、日本が悪いことをしたと話す人がいます。しかし、それは間違いです。日本は台湾に教育を施しました。それが厳格であったため、時に叩き叱ることもあったが、そこには愛があった」というお話でした。

日本人はどこか自分たちの先達は悪いことをしたのだと思いがちですが、友愛会の皆さんのような方々が、当時の出来事を忘れないで下さっているお

かげで、再び日本と日本人を誇りに思うことができました。

交流会後は蔡焜燦先生との夕食会場へ。会場に着くと、蔡先生はすでに到着していました。全員に名刺をお配りいただき、二つのテーブルに分かれて着席しました。蔡先生の乾杯のご発声から会食開始です。蔡先生は冗談を交えて楽しい雰囲気でお話して下さる方で、私には「漢字を読み間違えないように」と、有難い(?) お言葉を頂戴しました。会食中、「私たち日本



「日本人が普通に日本を好きになって欲しい」という蔡焜燦先生のお言葉に胸が熱くなった(前列右2が蔡先生、右3が杉本部長。8月22日、竹里館松江店)

の若者に何を期待しますか?」そう質問すると蔡先生は熟慮され、やがてこのような趣旨のことを仰いました。

「特別でなくてもいい。日本人が普通に日本を好きになってほしい」

このお言葉に思わず胸が熱くなりました。蔡先生や友愛会の皆さんの思いを、多くの日本人に語り伝えなければならぬと強く思った初日でした。

総統府・台湾博物館・芝山巖

翌八月二十三日朝、ホテルのロビーに集合、バスで総統府へ。

今回のリーダーである杉本部長曰く「その時の政権によって、ガイドさんの説明内容が変わることがある」とのことでした。実際、私が一年前、総統府を訪問した時は、日本地図が貼ってあり、その地図を見ながらガイドの方が「北方領土だけでなく、千島列島の方も日本の領土だ」と力説されていたが、今回は当たり障りのない説明だったのが寂しい印象でした。

再びバスに乗り込み、次は台湾博物館へ台北の街中を移動。中に入り頭上を見ると、そこには第四代総督の児玉

源太郎氏の家紋と後藤新平氏の家紋がステンドグラスに描かれていました。

博物館内のお二人の銅像と記念写真を撮り、京鼎樓で昼食。その後、六氏先生が眠る芝山巖^{しざんがん}へ向かいました。

こちらでは、六氏先生の墓守でもある士林小学同窓会長の林政毓^{りんせいいく}先生が、傘を差しわざわざ道路まで迎えに来て下さっていました。長い石段を登り、



林政毓先生のご案内で、小田村会長の祖父もそのお一人である六氏先生のお墓に参拝(8月23日、芝山巖の恵濟宮)

芝山巖を見学。こちらは廟という体裁にしたため、日本人縁^{ゆかり}の場所であつても国民党の破壊から免れることができたそうです。その後、廟の裏手にある六氏先生のお墓にお花とお線香を手向け、記念碑にもお花を手付けました。

台北駅へ向かうため下山を始めた途端、猛烈な雨が降り始めました。台湾では神様や霊が、参拝客が帰ろうとすると「帰らないでほしい」と雨を降らすことがある、という言い伝えがあるので、ちょうど六氏先生のお墓を参拝する際には雨が止み、帰ろうとした途端に降り始めた雨を見て、私達は六氏先生を近くに感じました。

時間の都合上、一向に止まない豪雨の中を強行突破、バスに戻りました。振り返ると林先生が、わざわざ私たちとともに下山して、走り出すバスに手を振ってくれていました。その優しさ、雨宿りの際も嫌な顔ひとつせず、むしろ水やお菓子、カップまで差し入れて下さった林先生に感謝の気持ちを

込めて手を振り返りました。

台北駅からは新幹線で台南駅へ。そこから市街地にあるホテルに到着後は有志で夜市へと繰り出し、翌日に備え早目（朝二時頃）に就寝しました。

飛虎將軍廟・林百貨店・烏山頭ダム

八月二十四日は、まず飛虎將軍廟へ向かいました。ここでは今でも朝夕二回、飛虎將軍の神像に線香を手向け、「君が代」と「海ゆかば」を流してお祀りして下さっているそうです。

有難いことに、私達が訪問した際にも正式な礼拝の儀式を行って下さいました。その後、廟を現在も守って下さっている方々から廟についてのお話をいただきました。「実は、日本軍の基地はここ（台南市）ではなく高雄市岡山にあったのだが、我々の関係は非常に良好だった」ということでした。

飛虎將軍こと杉浦茂峰^{すぎうら しげみね}さんは生前から、現地の方々と交流を重ねていたこともあり、命がけで住民を守り、住民

は杉浦茂峰さんを神様として今も祀って下さっているのかもしれない。

続いて、最近、見学可能になった林百貨店^{はやし}へ向かいました。当時、台南最大の建物で、百貨店から市内を一望できたそうです。見学をしていた現地の老夫婦は、その当時来たことがあるとのこと、復元されたため、夫婦で見学に来たそうです。懐かしそうに建物を見る目が印象的でした。

次は、個人的に今回もつとも行きたかった場所、烏山頭ダム^{うざんとう}です。

バスで約一時間。山の中のゲートに辿り着きました。そこで、烏山頭ダムをガイドして下さる顔雲鴻^{がんうんこう}さん（この方のお兄さんは八田與一^{はちた よいち}さんと一緒に仕事をしていた技師）と黄さん（ダムを管理する烏山頭水庫OB）と合流。一緒に食事することに。

料理を待つ間、顔さんが当時歌われていた「台湾樂しや」という歌を歌って下さいました。その美声に一同拍手喝采。また、その歌詞と明治天皇の御

製、そして烏山頭ダムに関する和歌十七首を日本語と中国語で書かれたプリントを下さいました。

ダムの畔に佇む八田與一さんの銅像にお花を手向け、記念撮影。ポーズはもちろん頭に手を置いた姿です。

続いて少々急ぎ気味で、烏山頭ダムの管理事務所へ。有難いことに、通常は見る事ができない、八田さんの銅像の母型を見せていただきました。

また、事務所のベランダからは烏山頭ダムが一望でき、これも通常では見る



顔さんと黄さんのご案内で烏山頭ダムを見学し、八田技士の銅像に献花後、八田技師得意のポーズを真似て皆で八田像を囲んで（8月24日、烏山頭ダム）

ことができないう風景とのことでした。バスで新幹線の嘉義駅へ向かう道すがら、メンバーの李久リジョウウエイ惟さんが、車窓を流れる広大な美しい田園風景も、

烏山頭ダムがなければ存在しえないものだと解説。その話を聞き、改めて八田さんの功績に驚きました。

李登輝先生を間近に拝して

新幹線に乗り、正装に着替え、いよいよ李登輝先生のいらっしゃるパーティー会場へ。李先生が体調不良であった



李登輝先生の元気なお姿を間近で拝して感動するとともに安堵（李先生の手前の女性は令孫の李坤儀さん。8月24日、華樺大飯店・中崙店）

ため、当初の予定になかった李登輝基金会の募金パーティに特別にご招待いただいたのです。

開会のご挨拶は、李登輝先生がまだスピーチされるだけの体力がないとのことと、ご長女の李安妮リアンニさんが行われましたが、李登輝先生の元気なお姿を間近で拝し、感動するとともに安堵いたしました。完全回復されることを心からお祈り申し上げます。

驚いたことに、私達のテーブルに、出席されていた蔡焜燦先生や李登輝基金會事務方トップの王燕軍おうえんぐん秘書長もわざわざご挨拶に来て下さいました。そのお心遣いに感動しながら、豪華な料理を食べているとあつという間に閉会の時間に。

今回のツアーを終えて、ますます台湾が好きになりました。また、その台湾の方々からいただいた言葉・事実・熱意を一人の「語部かりべ」として日本人に伝えなければならないという思いに駆られています。